

令和 7 年度 文教委員会資料

【所管事務の調査（報告）】

川崎シンフォニーホールの大規模改修に向けた取組について

資 料

 川崎シンフォニーホールの大規模改修に向けた取組について

市 民 文 化 局

（令和 7 年 11 月 20 日）

1 概要

平成16（2004）年に開館し、開館20年を迎えた川崎シンフォニーホール（愛称:ミューザ川崎シンフォニーホール）について、**世界水準の優れた音響性能を確保し、今後も国際的評価の高いホールとしての地位を維持**できるよう、次期大規模改修の**改修計画を策定**する。

2 施設概要

施設概要

施設名称	川崎シンフォニーホール（愛称:ミューザ川崎シンフォニーホール）	 川崎シンフォニーホール（外観）
設置目的	音楽の鑑賞の機会の提供、音楽活動の振興等を図り、もって市民文化の発展に寄与することを目的に整備	
施設概要	◆音楽ホール：1,997席（車椅子10席含む） ◆音楽工房：市民交流室 1室、練習室 3室、会議室 3室、研修室 4室、企画展示室 1室	
所有者	川崎市 ※ミューザ川崎ビルのうち、音楽ホール及び音楽工房、事務所等を区分所有	
運営体制	◆指定管理者制度による運営（第4期） 指定期間：令和2（2020）年4月1日～令和12（2030）年3月31日 指定管理者：川崎市文化財団グループ （公益財団法人川崎市文化財団、株式会社シグマコミュニケーションズ、サントリーパブリシティサービス株式会社のJV）	
ホール実績 （令和6年度）	◆公演回数：225公演（主催・共催：96公演、貸館：129公演） ◆総入場者数：247,885人（主催・共催：103,393人、貸館：144,492人）	
開 館	◆平成16（2004）年5月20日（音楽工房） ◆平成16（2004）年7月1日（音楽ホール）	
構 造	鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造 ※地下2階、地上27階建て（ホール棟は地上8階建て）	
面 積	◆敷地面積：10,669.34㎡（共有） ◆建物延床面積：114,344.46㎡ ◆専有面積：69,696.13㎡ 上記のうち市専有部分面積：17,243.96㎡	 音楽ホール  音楽工房（市民交流室）

3 利用状況等

(1) 音楽ホール利用状況

音楽ホールの**日数利用率は毎年99～100%**で推移し、**年間入場者数は20万人以上**となっており、**高い稼働率を維持。**

※コロナ禍でキャンセル等があった令和元～3年度を除く。

(2) 川崎シンフォニーホールの特色

- ✓ ウィーン・フィル、ベルリン・フィルなど**世界最高峰のオーケストラ**が演奏し、**国内外の著名な音楽家から高く評価**され、海外や地方自治体からの視察も多く訪れている
- ✓ 川崎市**フランチイズオーケストラ東京交響楽団**の本拠地
- ✓ 夏の音楽祭として定着した「フェスタサマーミュージザ KAWASAKI」には**全国から聴衆が訪れている**

そのほか、市民の晴れの舞台として市民第九コンサート、プラチナ音楽祭等の開催や、ミュージザの日、ジュニアプロデューサー等の地域に根差した多彩なコミュニティプログラムの展開、小学5年生の音楽体験機会の提供等の人材育成を実施

音楽ホール利用状況

項目	R4年度	R5年度	R6年度
開館日数	347日	342日	347日
利用日数	347日	341日	347日
日数利用率	100%	99%	100%
公演回数	209回	212回	225回
主催・共催	84回	90回	96回
貸館	125回	122回	129回
入場者数	204,793人	218,125人	247,885人
主催・共催	76,077人	93,327人	103,393人
貸館	128,716人	124,798人	144,492人
入場者率	76%	83%	86%



東京交響楽団



フェスタサマーミュージザKAWASAKI
(オープニング・ファンファーレ)



かわさき市民第九コンサート

4 改修に関するこれまでの経過及び施設の劣化状況

(1) 改修に関するこれまでの経過

年 度	改修に関する取組等
平成30～令和元年度	◆休館を伴う改修を実施（約6ヶ月間休館） ・音響・舞台設備(スピーカー、迫等) ・照明設備（調光器盤等） ・舞台吊物設備(音響反射板のワイヤー等) ・パイプオルガン整音・調律（一部）
令和4年度	◆次期大規模改修に向けた整備の方向性等を把握するため、以下を実施 ●劣化調査・診断 (1) 施設の劣化調査 (2) 既存施設の現況調査・確認 ●大規模改修の時期、主な内容の検討 【概要】・各設備機器等の耐用年数に応じて予防的に更新する ・各設備機器等の耐用年数及び休館の頻度を考慮し、大規模改修を原則10年周期 とする
令和6～7年度	◆川崎シンフォニーホール改修計画策定支援業務委託の実施 (委託概要) 施設の現状等の確認、課題整理を踏まえた改修の考え方、各部位別の改修方法、スケジュール等を記載した改修計画案の作成

(2) 施設の機能・性能劣化及び経年劣化の状況

	主な劣化状況等	
音楽ホール (舞台関連)	・舞台床の傷や黒ずみが目立つ ・舞台迫が同時可動できない ・舞台音響設備機器の需要の高い回線や、吊マイク設備が不足している ・パイプオルガンの電子部品の経年劣化 ほか	 音楽ホール舞台床 (傷や黒ずみが目立つ)
音楽ホール (舞台関連以外の設備等)	・床、壁、屋上の各所に、傷みなどが多数 ・動線や案内板・サインの表記がわかりづらい(ロビー) ・コンサート等のイベントに必要な電源や回線が不足している(歓喜の広場) ・空調機器の経年劣化 ほか	 屋上(音楽ホール) (劣化によりマシンハッチからの漏水がある)

※その他、音楽工房についても床や壁の傷みなどの劣化がみられる。

5 改修の考え方

1 「選ばれる施設」であり続けるための改修（機能・性能劣化への対応）

川崎シンフォニーホールが今後も高い国際的評価を維持し、他の施設と比較して「選ばれる施設」であり続けるため、時代に適応した機能・性能へバージョンアップを図る。



音楽ホール

《 3つの改修コンセプト 》

- ✓ 時代に適応した機能・性能へのバージョンアップ
- ✓ 使いやすさと景観・美観の向上
- ✓ 舞台性能の向上と音響性能の維持

2 基本的な施設・設備及び音響性能を維持するための改修（経年劣化への対応）

施設の経年劣化に適切に対応し、安全・安心な施設であり続けることは必要不可欠である。特に音楽ホールについては現行の音響性能を保ち、施設の不具合による海外オーケストラ公演の中止に伴う訴訟等のリスクを回避するために、予防保全的に施設・設備（主に空調機器）を改修し、現状のホール空間を健全な状態で維持する。

その他、「かわさきパラムーブメント」「脱炭素化」「ランニングコスト低減」等の視点についても考慮し、改修範囲を精査する。

川崎シンフォニーホールへの市民の愛着と誇りをより高めるとともに、改修を契機としてファンのすそ野を広げ、シビックプライドの醸成と都市イメージの向上を図る。

6 主な改修項目（コンセプト別）

1 「選ばれる施設」であり続けるための改修（機能・性能劣化への対応）

改修 コンセプト	時代に適応した機能・性能への バージョンアップ	使いやすさと景観・美観の向上	舞台性能の向上と音響性能の維持	
	Web配信、映像演出等に対応した環境整備	利用機能と美観を兼ね備えたホール 空間の改善	よりフレキシブルな舞台床制御機構の導入	
対応 イメージ	映像配信用の回線の設置により世界各地の お客様にライブ感あふれる演奏をオンライ ンで提供。プロジェクター等の設置、スク リーンの更新、舞台照明のLED化により、 より自由度の高い演出を実現。（写真①）	更なるバリアフリー性能の向上や、ホワ イエ等において景観・美観・利用機能の 全体補修により、出演者と来場者のイ メージUPを図ることにより、誰もが使い やすいホールに。（写真②、③）	舞台床制御機構を更新することにより、柔 軟な舞台配置とストレスを感じさせない舞 台進行を実現。（写真④）	
				
	（写真①）スクリーンや照明等を 活用した演出	（写真②）ホールロビー1階の入口からエスカ レーターまでの動線の改善、インフォー メーションスペースの有効活用（改修イメージ）	（写真③）歓喜の広場の改修イメージ （NANOBIC 1階エントランスの木質 化の事例）	（写真④）舞台床及び機構（床下）

2 基本的な施設・設備及び音響性能を維持するための改修（経年劣化への対応）

工事区分	主な改修項目
建築	・ 外壁の補修（写真⑤） ・ 屋上の防水など
電気設備	・ 動力盤の更新 ・ 直流電源装置の更新 ・ 音楽ホール（舞台、客席除く）及び音楽工房の照明のLED化など
機械設備	・ 電気温水器の更新 ・ 空調設備の更新 ・ 昇降機の部品の更新など
舞台設備	・ 照明ボタン等のワイヤー更新（吊物機構） ・ 録音卓の更新（舞台音響）など
その他	・ パイプオルガンの電子部品の更新、パイプの修繕（オーバーホール）（写真⑥）



（写真⑤）外壁（西側）



（写真⑥）パイプオルガン

6 主な改修項目（エリア別）

(1) 歓喜の広場の整備

コンサート開催のための電源、照明等の設置、一部木質化により、市民が集い、交流する場としての機能を充実させる。



歓喜の広場

(5) 音楽工房の整備

来館者から「迷う」「入りにくい」と指摘される見通しの悪さを解消し、より多くの人に使いやすく親しみを持てる施設となるよう、サイン表示等の必要な見直しを行う。



音楽工房の廊下

(9) 映像配信環境の整備

公演の配信設備等の強化を図るため、必要な電源・信号回線を増設し、Web配信により多様な人が音楽を楽しむことができる環境を整える。



映像配信作業の様子

(2) 手摺の追加、不規則な段差の是正

手摺の追加、不規則な段差などの是正により、来場者の転倒防止を図る。

(3) 壁面の再塗装

傷みの進んだ壁面の再塗装等により、美観の向上を図る。



音楽ホール内の
拡散壁

(4) 舞台床仕上げの更新、機構設備の更新

音響性能の維持、スムーズな舞台進行のため、劣化が進行した舞台床仕上げの更新と耐用年数を迎える舞台床機構設備を更新する。



舞台床

(6) ホールロビー等のレイアウト見直し

入口からエスカレーターまでの動線が分かりにくく、インフォメーションスペースが有効に機能していないため、一部レイアウト、サイン表示の変更等を行う。ロビー3、4階にバリアフリートイレを新設する。

(7) 車椅子席の改修

車椅子席に電動車椅子用コンセントを新設し、利用者のニーズに対応する。

(8) 照明設備のLED化

脱炭素化、ランニングコスト低減のため、客席電灯・舞台照明設備をLED化する。

(13) 遮音幕等の機能停止

現在利用されていない遮音幕等を機能停止し、改修後の維持管理費の軽減を図る。

(10) 楽屋の内装更新

壁・床などに傷みが見られる一部楽屋の内装を更新し、快適性の向上、演奏者のイメージアップを図る。

(11) 映写用スクリーンの駆動方式の見直し

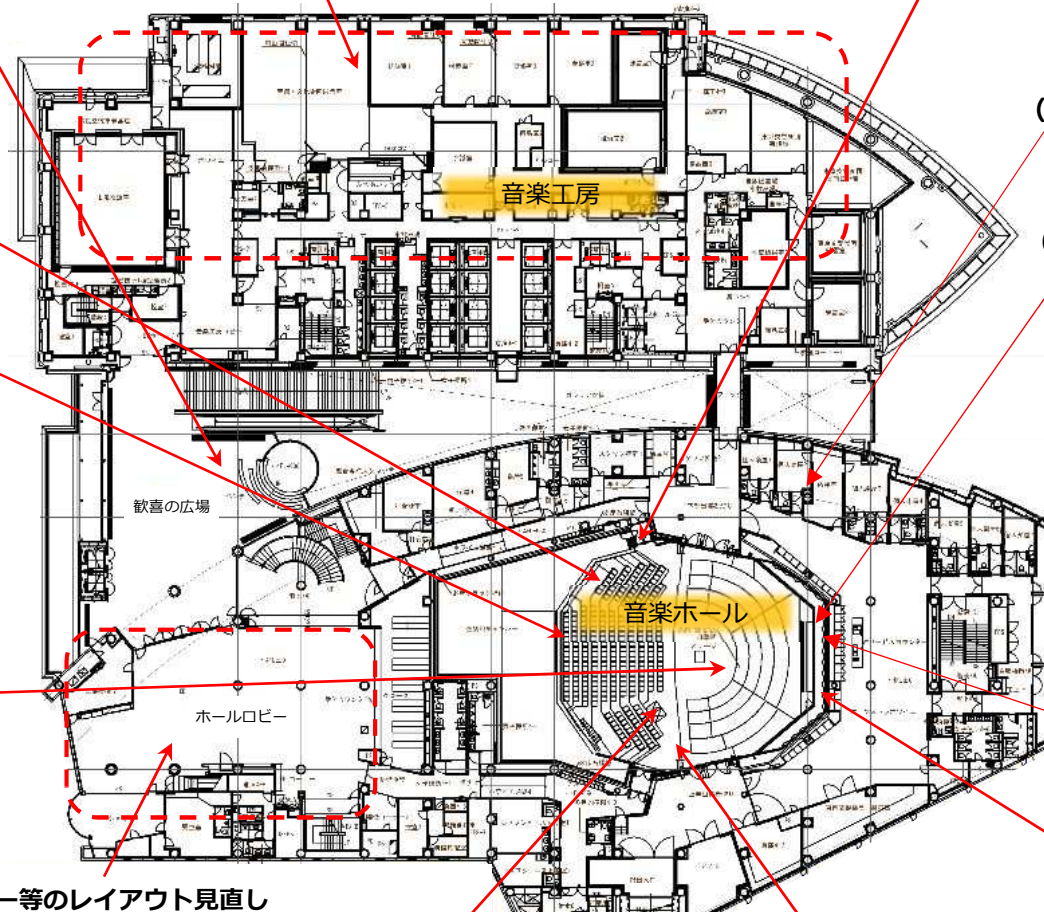
現行の幕地全体を巻取る方式の場合、幕地のみを更新しても再度しわが付いてしまうため、既存のスクリーン全体を撤去し、電動巻取式の大型スクリーンを新たに設置し、映像演出の需要に対応する。



スクリーン

(12) パイプオルガンの修繕

パイプのオーバーホール及び電子部品の更新を行うことで、パイプオルガンを良好な状態に保つ。



7 改修に関する事業手法について

(1) 民間事業者との対話（PPPプラットフォーム意見交換会）の概要

実施日 令和7（2025）年6月25日(水)、6月27日(金)、7月2日(水)
参加事業者数 6社
聴取事項 民間活用の可能性、参画するための条件や課題など

(2) 事業手法の検討結果

従来手法により実施

(理由) ○世界水準の優れた音響性能の維持や、フランチャイズオーケストラとの連携、区分所有のため一部工事は工事業者等が指定されるなどの前提条件を踏まえると、改修や運営の自由度が少なく、民間活用手法による性能発注のメリットを活かしにくい。
○施設の稼働率が高く、用途が限定的であるため、収益性の向上の余地が限られていることから、PPPプラットフォーム意見交換会においても、民間活用手法について積極的に参加の意思を示した事業者はいなかった。
○従来手法（設計・工事を市が実施）で実施した場合は、大規模改修の考え方や整備・管理・運営上の前提条件等に的確に対応した設計が可能であり、コスト面においても民間活用手法と大きな差がないことが確認できた。

意見交換会における主な意見は以下のとおり。

主な意見

民間活用の可能性	- 施設の制約や昨今の社会情勢を踏まえると、PFI（性能発注）のメリット（自由度や収益性）が活かせないため、<u>本件でのPFIは難しく、参画の余地が少ない</u>。 <u>音楽ホールの改修のPFI（RO）は事例としては珍しいが</u>、同ホールは立地の良さや知名度の高さにより観客数や収入での期待はある。 - 物価上昇等の影響で金額が折り合わず、<u>PFIは不調になっているケースが多い</u>。 - 設計者とともに運営者を先に決めて、運営側の意見を設計に反映する手法（<u>DO+B</u>）や、<u>EOI方式</u>等も考えられる。
参画するための条件や課題	- 契約書のスライド条項などにより金額に柔軟性があれば多少の余地があるが、<u>金額が固定となるとPFI参画は難しい</u>。特に舞台関係など特殊設備は価格が見通せない。<u>実施設計で仕様が決まっている通常の工事請負契約の方が取り組みやすい。（分離発注を希望）</u> - PFIの契約書にスライド条項が入っていたとしても、不明確な部分が多いと<u>PFI運営期間中の物価高騰などのリスクヘッジが難しい</u>。 - 改修規模が小さいと建設側のメリットが少なく、断念するケースが多い。SPCを設立するなどコストがかかるわりに成就に至らないこともあり、金額的に見合わない。また、<u>SPCの維持にも手間やコストがかかる</u>。 <u>工事費の上昇により利益が確保できない</u>。今後実施する<u>運営の領域、興行内容に自由度がないと参画が難しい</u>。 - ホールの機能再編を改修コンセプトに入れて、<u>ソフトの取組の提案の余地をもらえると、いろいろと提案ができる</u>。 - 音響性能の保持は必須という状況で、PFIで事業者任せにしてうまくいくかは懸念がある。 <u>設備系のサブコン（専門業者）を確保するのが困難</u>。大手から中堅までどこも手一杯な状況である。

8 概算事業費及び改修スケジュール

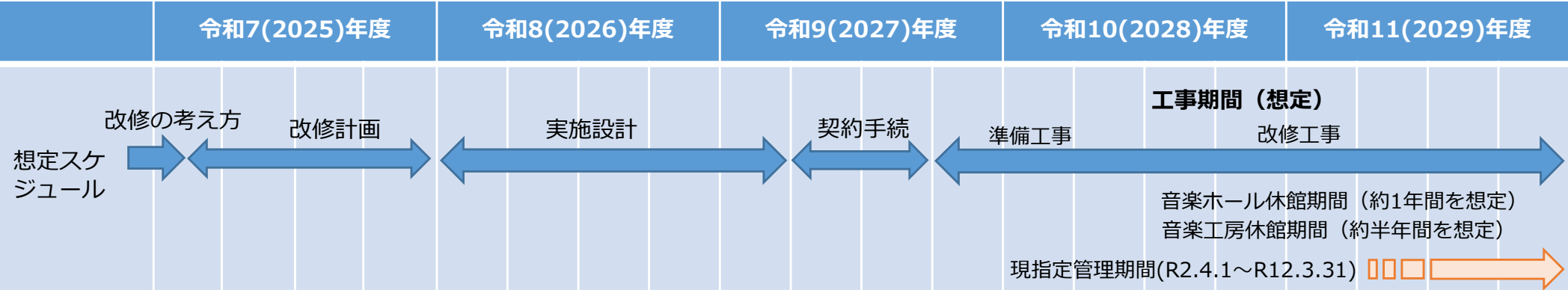
(1) 想定概算事業費

約95～105億円

- ※事業費については、「建築物のライフサイクルコスト（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）」及び専門業者の見積書に基づき算出。
- ※事業費の内訳については、機械設備及び舞台設備の改修が主要な割合を占める。
- ※今後、実施設計を進める中で事業費を精査するが、物価や人件費等の動向によっては、工事実施時期までに事業費が変動する可能性がある。
- ※事業費の財源の確保について、市債のほか、クラウドファンディングなどあらゆる選択肢について検討を行う。

(2) 想定改修スケジュール

- 令和7年度 改修計画の策定
- 令和8年度 実施設計（～令和9年度前半）、休館期間の公表
- 令和9年度 契約手続き、準備工事（～令和10年度前半）
- 令和10～11年度 改修工事（令和10年度後半～）



※令和10年度中に改修工事に着手し、令和11年度内の完了・再開館を目指す。実施設計や契約手続きの段階で詳細な工事内容、建築市場の動向等を踏まえたスケジュールの確認を行い、適切に進捗管理する。

工事期間	令和9(2027)年度後半～令和11(2029)年度
ホールの休館期間	令和10(2028)年度後半～令和11(2029)年度の うち約1年間
音楽工房の休館期間	令和10(2028)年度後半から約半年間